

まんなかビジョン討論会（豊橋会場）開催結果の概要

1. 開催日時・会場

- ・ 日時 平成 14 年 11 月 30 日（土）13：30～15：30、曇り
- ・ 会場 豊橋市民センター 多目的ホール

2. 出演者構成

・ コーディネーター

金子 鴻一（社団法人東三河地域研究センター常務理事）

・ 発言者

伊藤 孝人（豊橋市在住）

大貝 彰（豊橋市在住）

菊地 啓一（豊橋市在住）

竹本 章（宝飯郡音羽町在住）

富田 真知子（豊橋市在住）

宮川 直樹（渥美郡渥美町）

・ 行政側出演者

元野 一生（中部地方整備局企画部技術企画官）

開口 進（中部運輸局企画振興部次長）

青野 勤（愛知県東三河建設事務所長）

・ 聴講者数

98 名(男性 89 名、女性 9 名)

・ 会場風景



3. 主な発言要旨

【私の考える地域づくりに関して】

- ・ この地域の農業は全国的にも先進的な役割を果たしているが、日本の中心にあり輸送面で恵まれている。道路整備は重要だが、水など環境面もこれからは重要になる。
- ・ 国道1号線は交通事故が大変多く、地元で生活する人が不安を取り除けるような方策を考えてほしい。
- ・ 中心市街地活性化について、市民はその必要性について疑問を持っており、公共投資を実施する意思統一ができない。中心市街地活性化の活動に参加する人たちは一人一人がすばらしい考えを持っているが、個人の意見をまとめて活動に反映させる仕組みが十分でないことが問題である。
- ・ 勤務先の本社が東京から移転するとき、多くの候補先の中で豊橋市が選ばれたのは、地理的中央にあること、主要販売地域への距離、港の利便性、土地が安いこと、気候が良いことなどによる。しかし、本社移転後は徐々に東京に職員を増やしているのが現状である。理由は新幹線の編成が変わって東京まで時間がかかるようになったこと、マスメディアなどが東京に集中しすぎていることであるが、東京では流通コストがかかるし、一極集中が正常なことか考え直さなければならない。
- ・ 音羽町では国道1号、東名高速道路、新幹線、JR、名鉄が狭い地域に集中しているが、事故などが起こると全国の交通がマヒしてしまう。また、先日行われた東名集中工事では、国道1号や生活道路にまで渋滞になった。バイパスである名豊道路を早く作ってほしい。
- ・ 日本で一番交通量の多い地域であり、道路は全国を平等に整備するのではなく、一番最初に取り組んでほしい。
- ・ 人が住まなくなったらまちではない。駅から近いが借地が多く建て替えが難しいので、若い人は郊外に引越して独居老人が増えている。自動車を運転できない高齢者でも歩いて暮らせるまちになってほしい。
- ・ これまでは行政が公共事業をやってきたが、住民も一緒にやっていくことが重要だ。しかし、近隣は農家が多く高齢者や女性も働いているので、ボランティアやまちづくりに参加してもらえない。
- ・ NPO活動を行っているが、団体人数に対して補助するのではなく、人材育成に対してお金をつけるなど支援の仕方を考えるべきだ。

【まんなかビジョンへの期待について】

- ・ 国道1号線の静岡県側は浜名バイパスや潮見バイパスがあるが、県が変わって愛知県に入ると寸断されてしまう。
- ・ 地域に必要な投資とは何かを市民が考え積み上げていく手法に変えていかなければならない。もちろん客観的な評価手法を同時に行っていくことも大切だ。
- ・ 東京に機能集中する経済原理に対して、地域としてどう頑張っていけるかが大きな問題だ。同様に中部の中心（名古屋）に機能が集中することは東三河の発展にとって疑問だ。
- ・ 中心市街地活性化は国土交通省のものづくりの部局だけでなく、幅広く中心市街地の総合計画を作るような取り組みが必要だ。他省庁との連携をもっと上手くやってほし

い。現在は市町村がやれるところから投資をしているが、本当に必要なところに投資されるように地域に密着した施策や住民参加を進めていくべきだ。

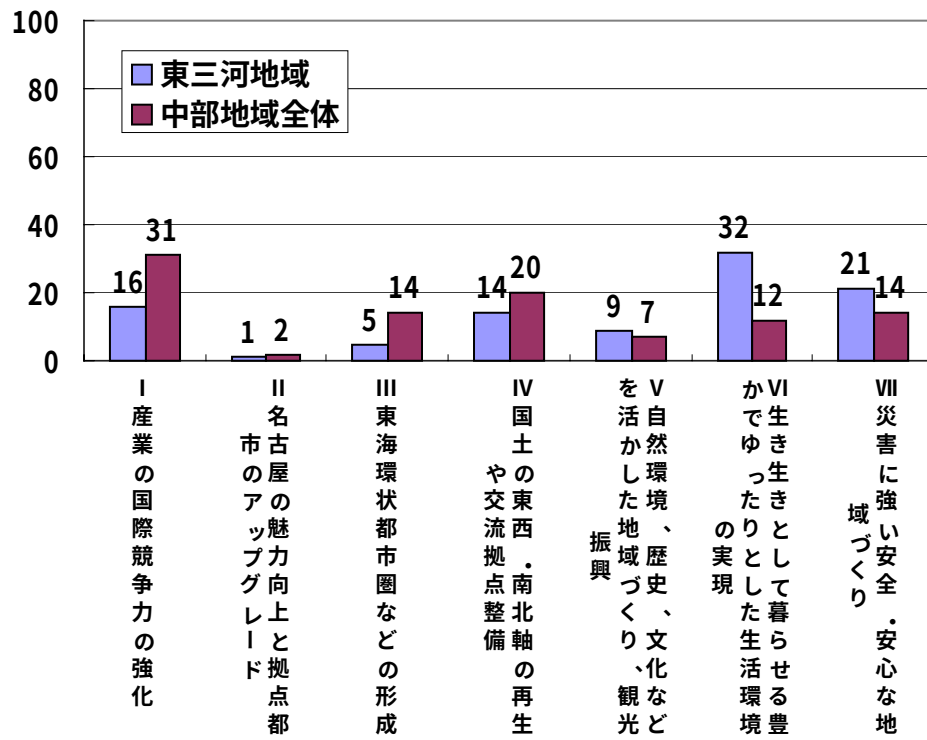
- ・ 7つの目標について、「I産業の国際競争力の強化」はともかく、これからの時代の取り組み意識を示すうえでも「VI生き生きとして暮らせる豊かでゆったりとした生活環境の実現」や「VII災害に強い安全・安心な地域づくり」をもっと上位にすべきだ。
- ・ 許認可申請が緩和されれば地方分権が進むと思う。一度豊橋で生活をすると通勤地獄で住居費がかかる東京への転勤を嫌がる人が多く、人間らしい生活をするのに豊かな地方で暮らすのは良いことだ。地方をもう少し重視することが大事で、地方の活性化が日本の再生につながる。
- ・ 「I産業の国際競争力の強化」には企業がいかにかすばらしい製品を作ることができるかが大事であり、そうした支援を重点的にやるべきだ。
- ・ 住民参加のまちづくりに働いているお父さんたちや学生はなかなか参加してもらえないので、インターネットを有効に使っていけないだろうか。
- ・ 「IV国土の東西・南北軸の再生や交流拠点整備」に市民参加を積極的に進めることを書き込んでほしい。連携交流には地域外交流だけでなく、愛知万博などで愛知県と岐阜県、三重県とで何ができるかを考えるようなことをすべきで、中部の交流を書き込むべきだ。
- ・ 水問題はすべての人が見過ごせない問題で、地域振興策がどういう意味合いを持って実施されるのかをみんなにわかってもらうことが重要だ。
- ・ 地域の生活の場を大切にしたい地域づくりを進めたり、生活の視点からものを考えることがこれからは重要になる。
- ・ 水を供給してくれる上流の人たちとコミュニケーションを取れる場を作れないか。ほの国（東三河）を一つにした行政体にするぐらいの考えが必要だ。

4. 意向アンケート結果

会場にお越しいただいた聴講者やコーディネーター、発言者の方に対し「意向アンケート」を実施し、その場で、「中部の目指すべき方向（7つの目標）」について、東三河地域と中部地域全体のそれぞれの観点から最も重要と思われる項目について尋ね結果を発表した。結果は以下の通りである。

- ・ 東三河地域地域では、「VI.誰もが生き生きとして暮らせる豊かでゆったりとした生活環境の実現」が最も多く、全体の約3分の1（32票）を占め、次いで「VII.東海地震をはじめとした災害に強い安全・安心な地域づくり」が続いた。一方で、「II.世界都市を目指した名古屋の魅力向上と拠点都市のアップグレード」と「III.東海環状都市圏・環伊勢湾広域交流圏などの形成による新たな交流の拡大」は少ない票となっている。
- ・ 一方、中部地域全体は、「I.モノづくりなど産業の国際競争力の強化」の回答が最も多く、次いで、「IV.日本のまんなかである優位性を活かし、国土の東西・南北軸の再生や交流拠点整備による国内外交流の推進」が続いている。

〔意向アンケート得票数〕



5. アウトカム目標に関するセンテンス抽出

アウトカム目標の候補「個人の意見地域づくりに反映させる仕組みづくり」(Ⅵで)
関連する地域の声)

「中心市街地活性化の活動に参加する人たちは一人一人がすばらしい考えを持っているが、個人の意見をまとめて活動に反映させる仕組みが十分でないことが問題である。」

アウトカム目標の候補「歩いて暮らせるまちづくり」(Ⅱで)
関連する地域の声)

「自動車を運転できない高齢者でも歩いて暮らせるまちになってほしい。」

アウトカム目標の候補「人間らしい暮らしのできる豊かな地域づくり」(Ⅱで)
関連する地域の声)

「一度豊橋で生活をする通勤地獄で住居費がかかる東京への転勤を嫌がる人が多く、人間らしい生活をするのに豊かな地方で暮らすのは良いことだ。」